

IPMに基づく防除の実態と問題 点に関する調査結果について

元木 貢・清水 一郎・坂上 茂雄・谷川 力
渡邊 賢太郎・石向 稔・小松 謙之・渡邊 徹
伊藤 弘文・佐々木 健・田中生男

(社団法人 東京都ペストコントロール協会)

IPMに関するアンケート実施

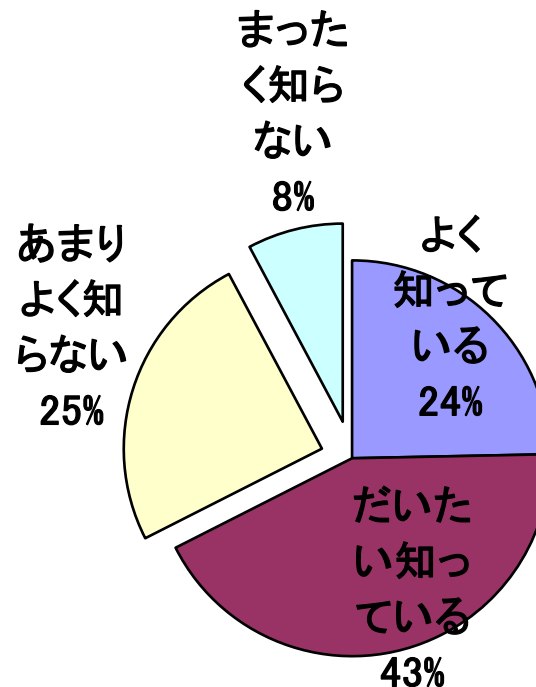
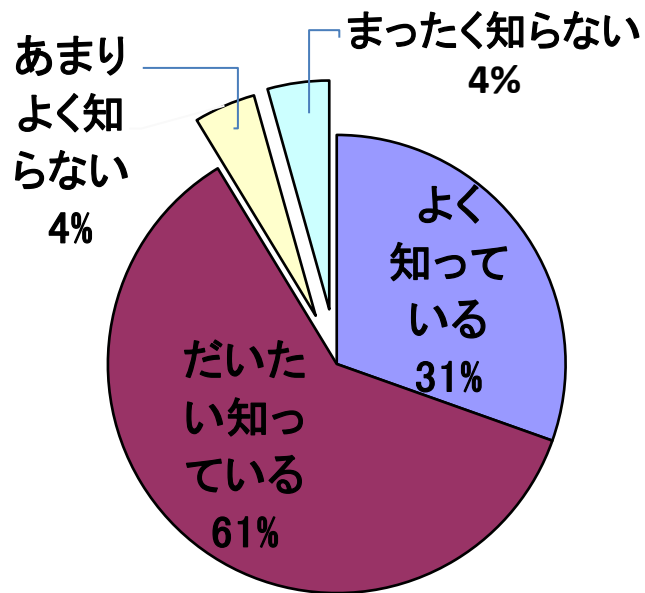
- 実施日：2011年6月～7月
- 対象：
 - ①(社)東京都ペストコントロール協会会員
発送数 116社 回答数40社 回答率34.5%
 - ②(社)東京ビルメンテナンス協会会員
発送数 536社 回答数77社 回答率14.4%
 - ③東京都環境衛生担当職員
発送数 262名 回答数69名 回答率26.2%

IPMを知っていますか

• 都職員

• ビルメン

• PCO



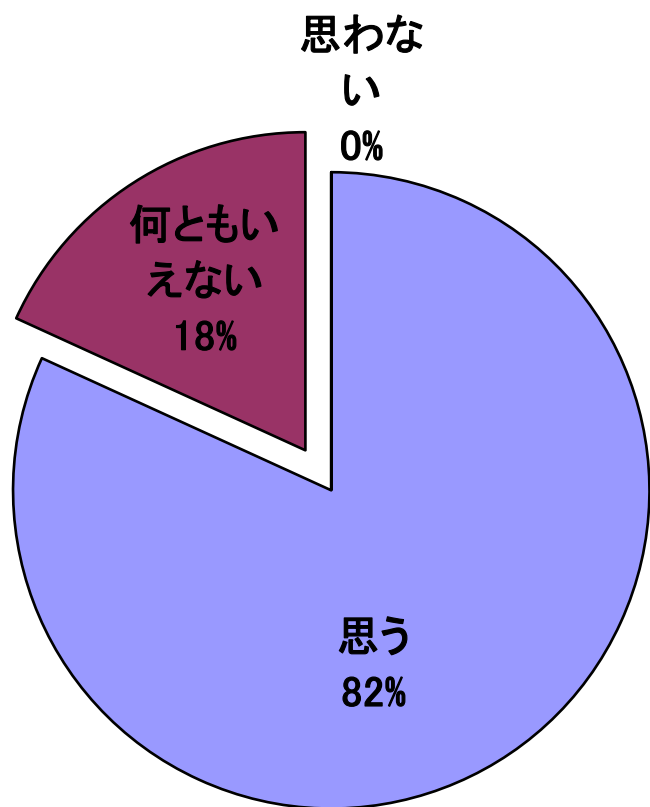
維持管理要領が通知されたのを知っている
=96%

まあ、対応できる
=80%

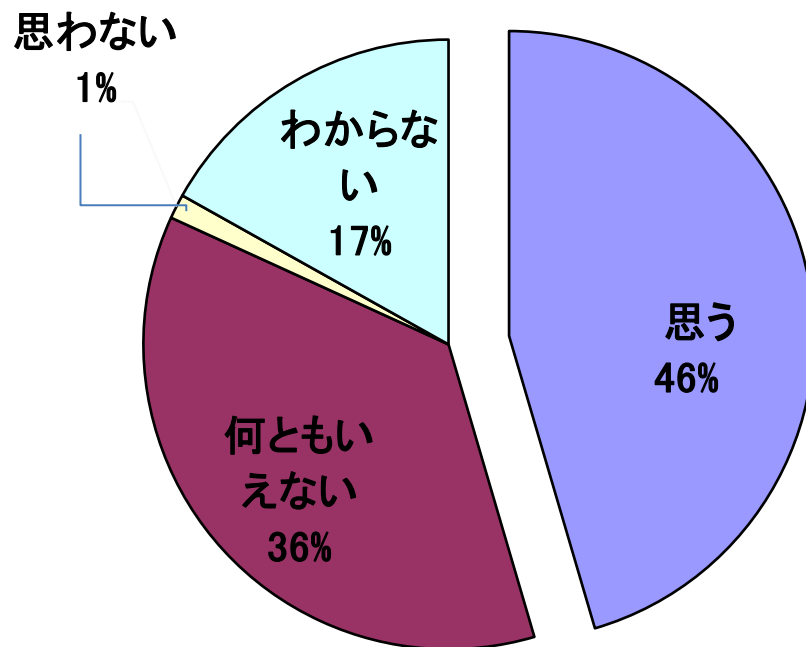
平成20年8月
IPMアンケートより

IPMは適切な考えと思いますか

• 都職員

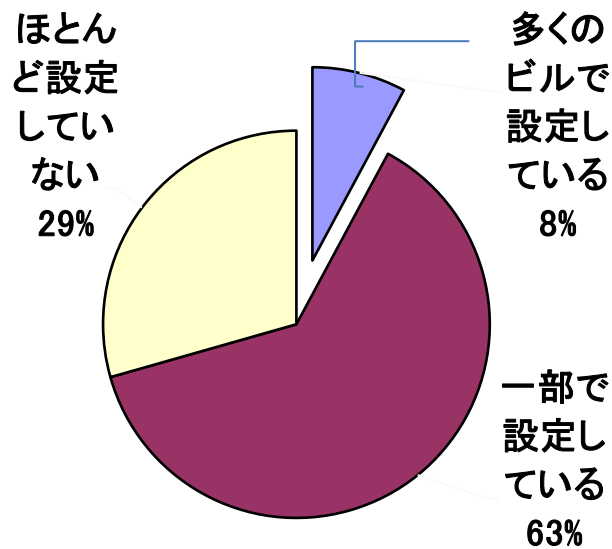


• ビルメン

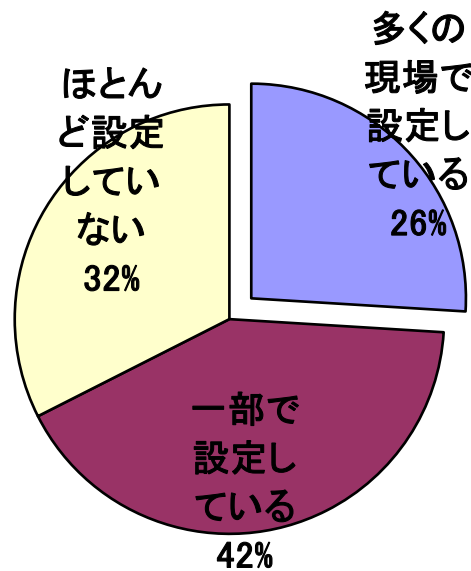


目標水準の設定

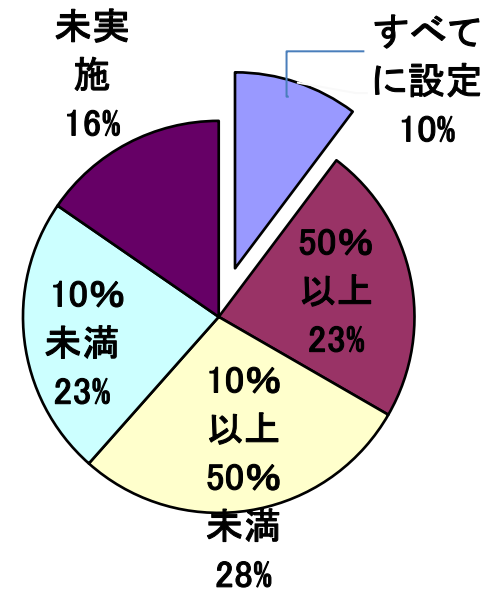
都職員



ビルメン

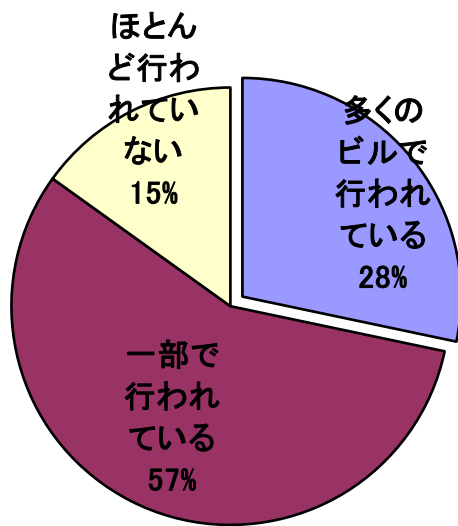


PCO

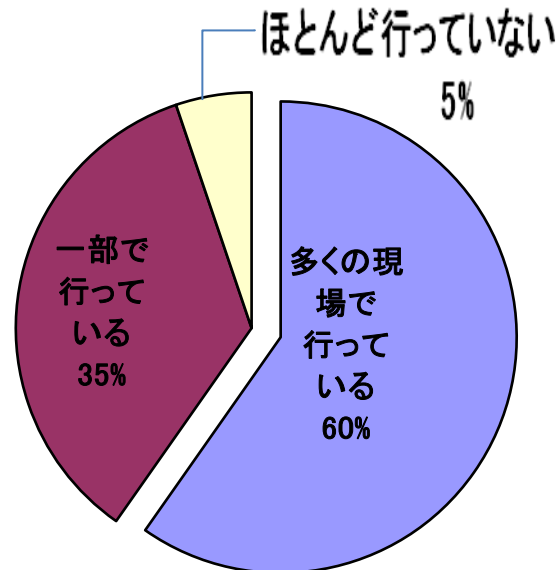


効果判定

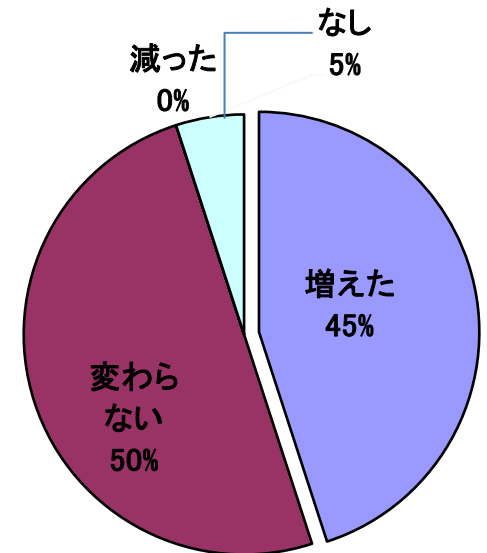
都職員



ビルメン

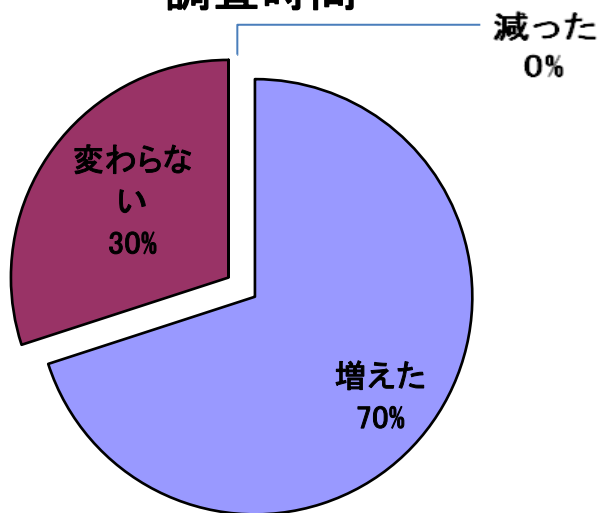


PCO

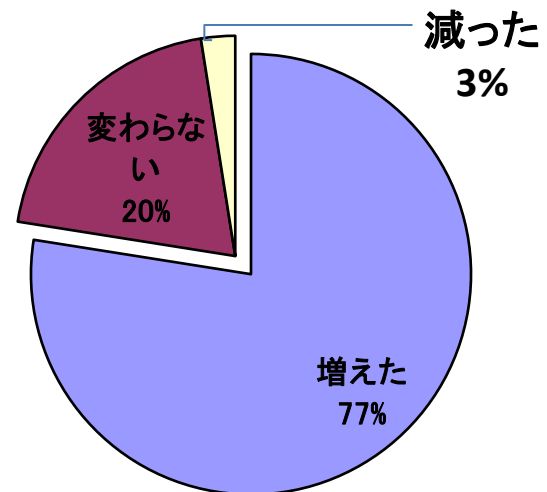


PCO

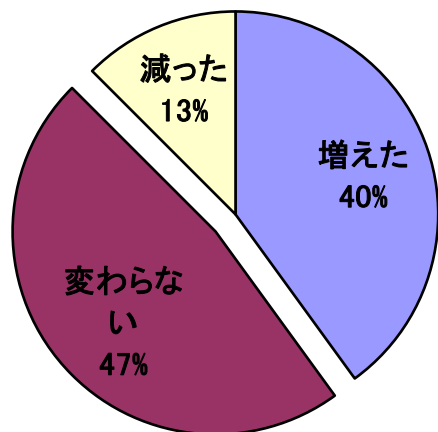
調査時間



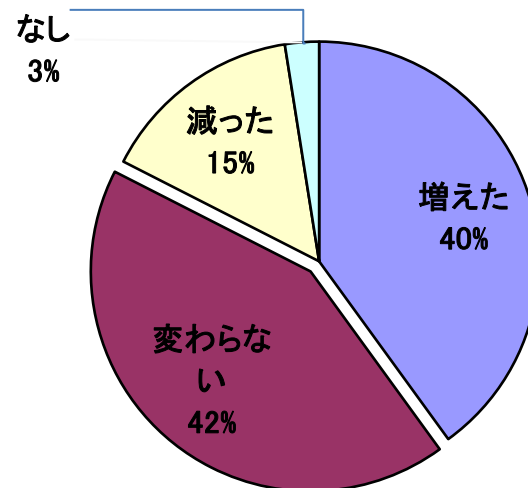
報告書に要する時間



措置に要する時間

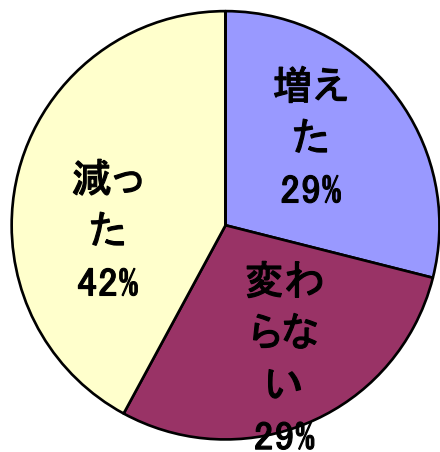


肉体的負担

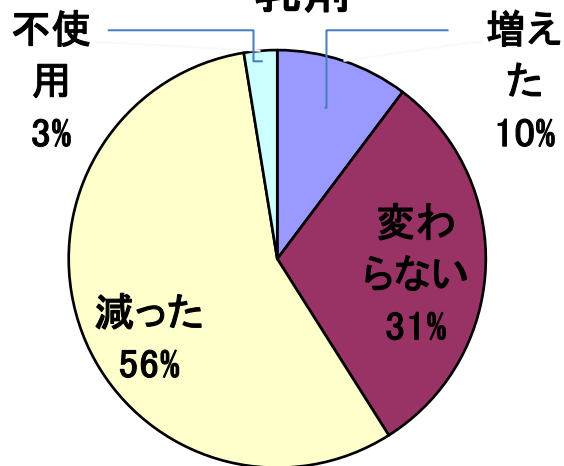


薬剤の使用状況 (PCO)

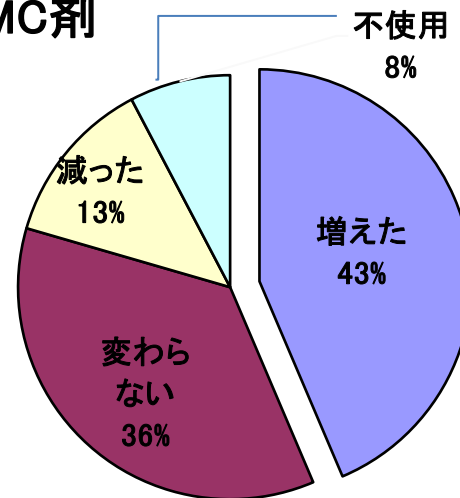
薬剤費



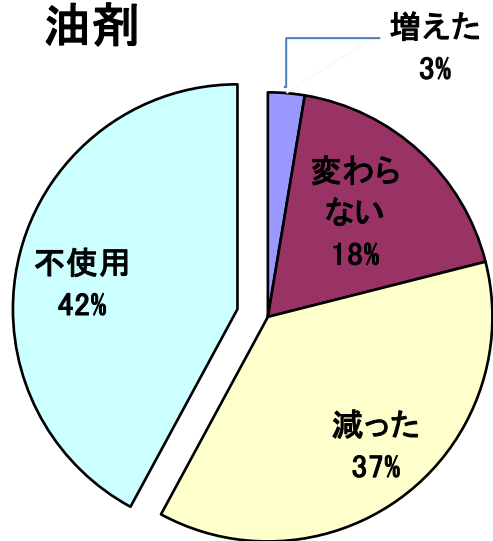
乳剤



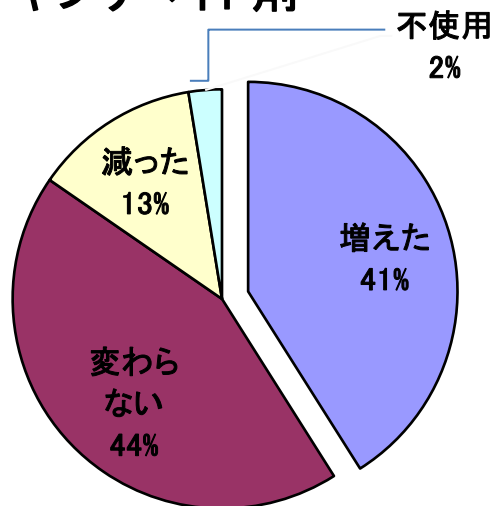
MC剤



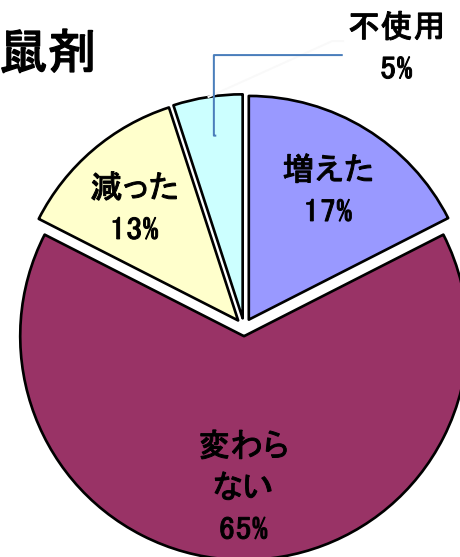
油剤



ゴキブリペイト剤

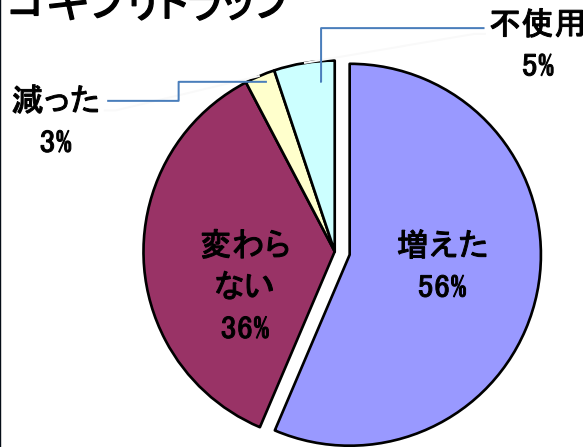


殺鼠剤

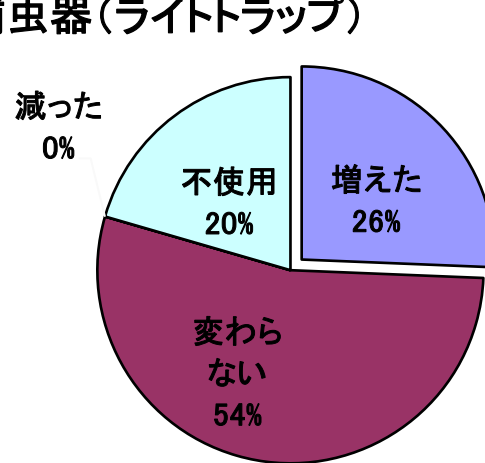


器具機材の使用状況 (PCO)

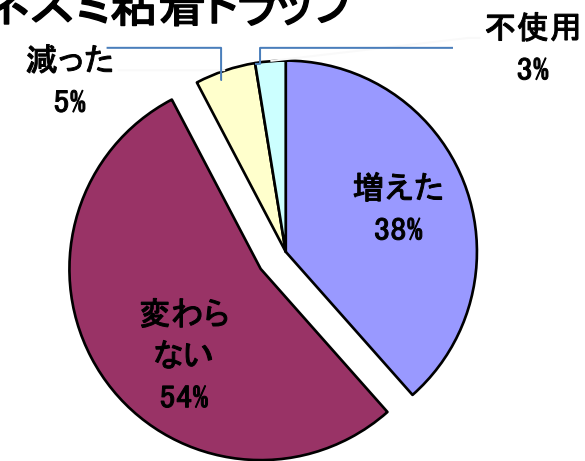
ゴキブリトラップ



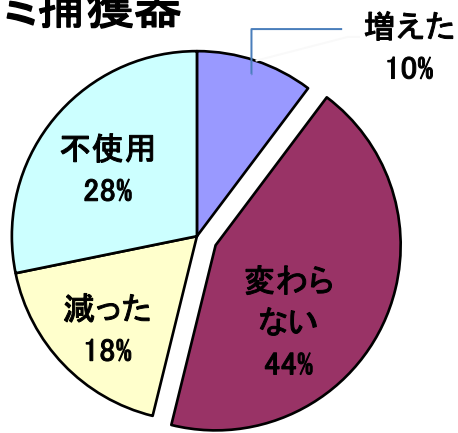
捕虫器 (ライトトラップ)



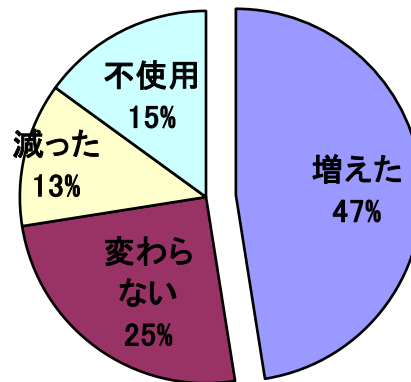
ネズミ粘着トラップ



ネズミ捕獲器



毒餌箱の使用

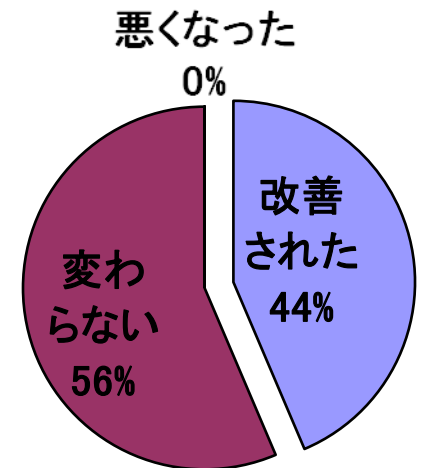
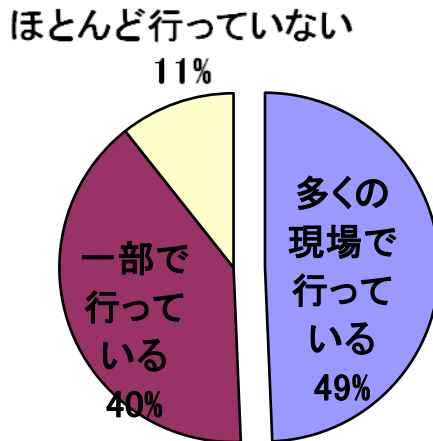
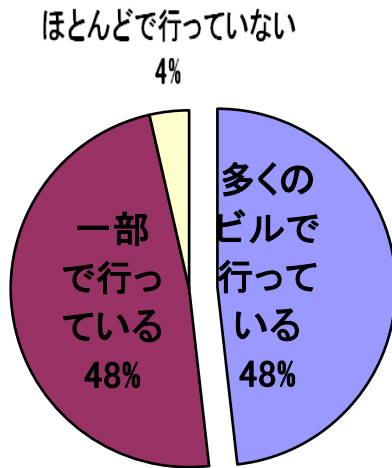


食物・清掃などの管理

都職員

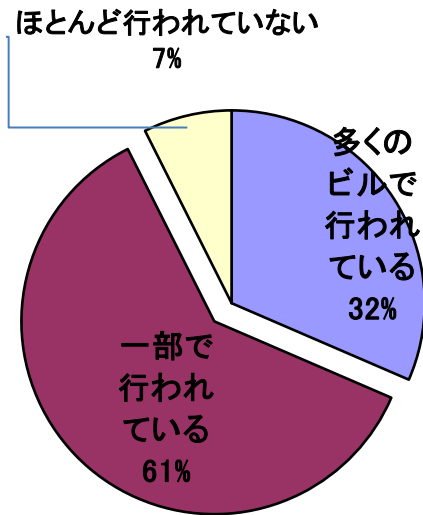
ビルメン

PCO

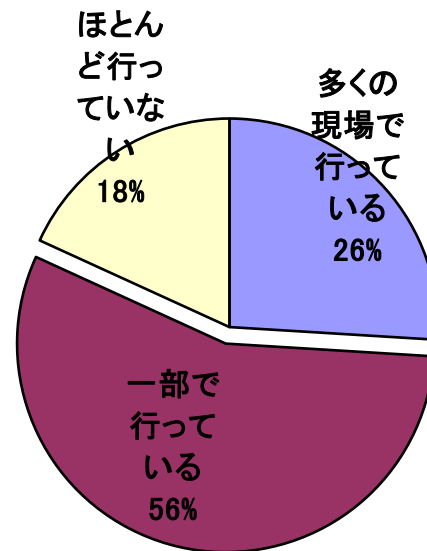


侵入防止対策（防鼠・防虫工事）

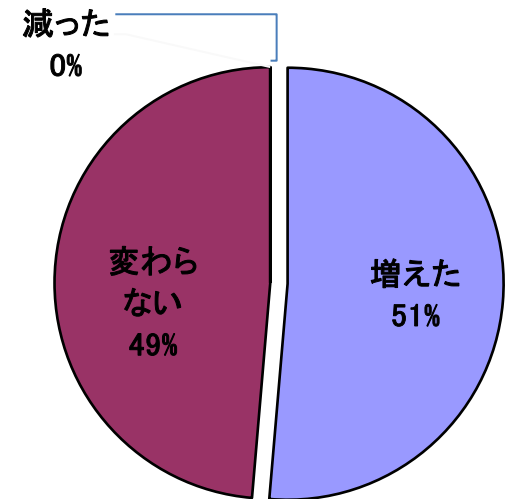
都職員



ビルメン



PCO

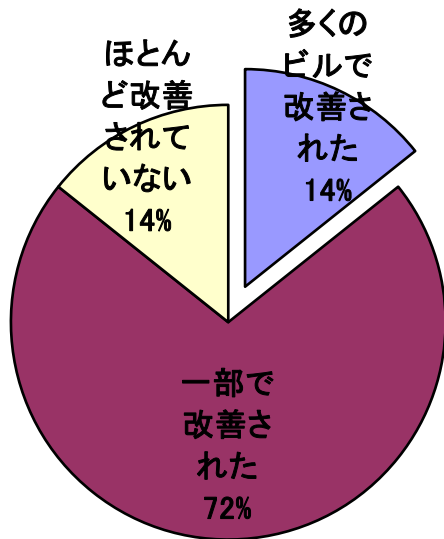


生息状況は改善されたか

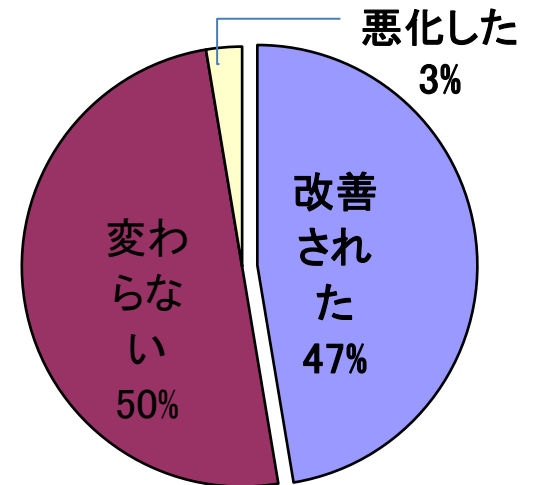
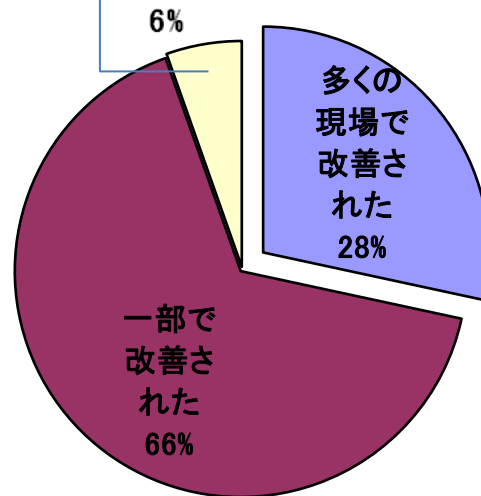
都職員

ビルメン

PCO



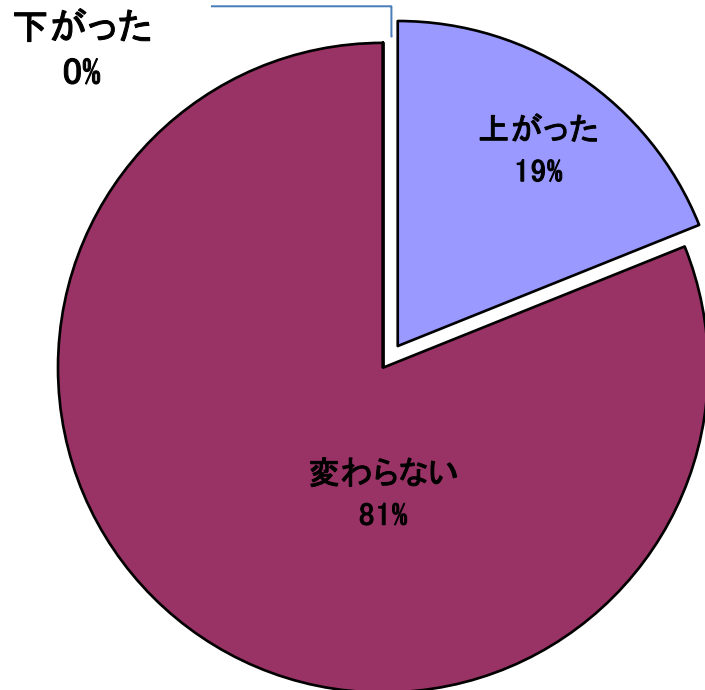
ほとんど改善されていない



得意先の評価度

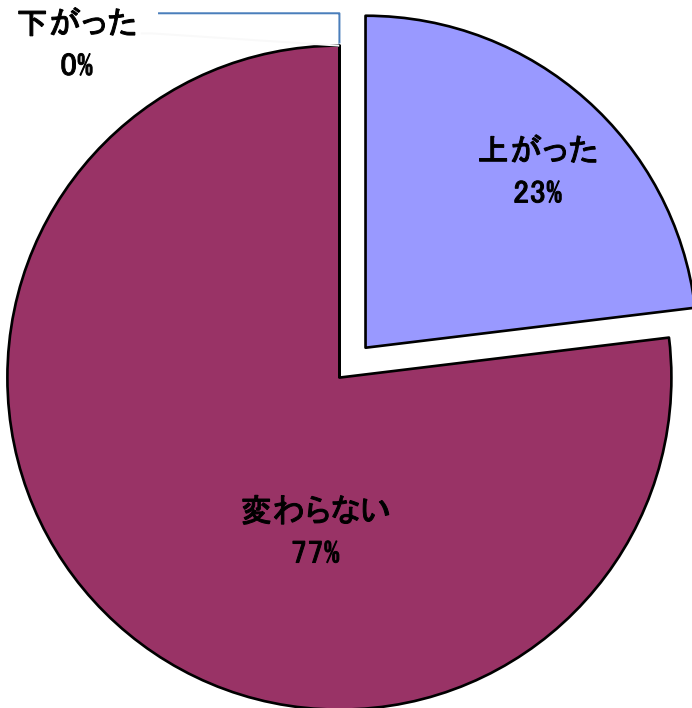
ビルメン

ビルオーナーの評価度は



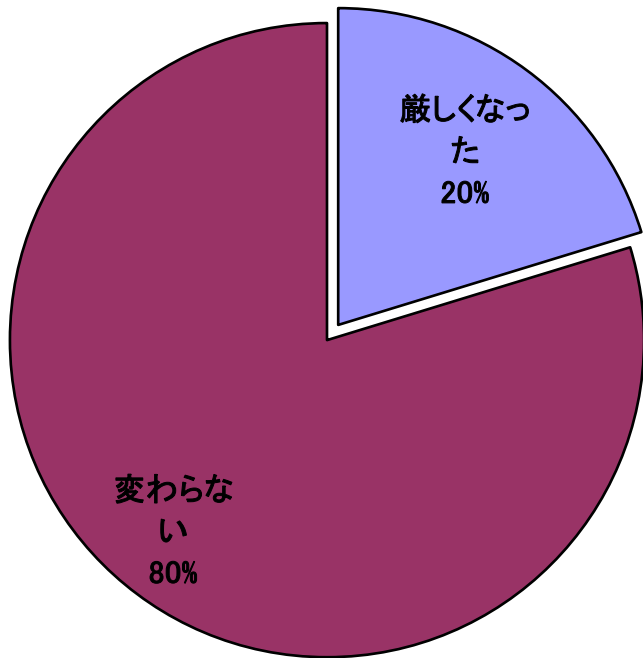
PCO

得意先の評価

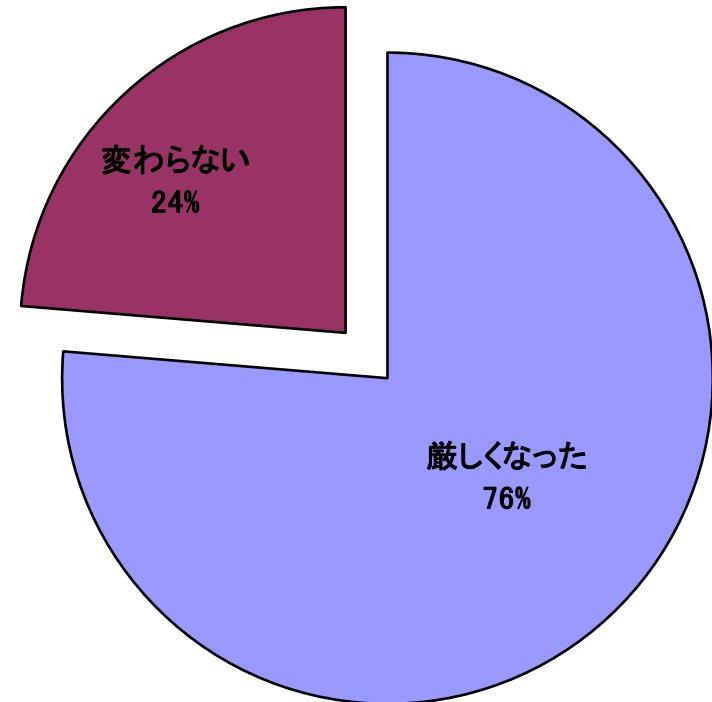


顧客の安全への反応

ビルメン



PCO



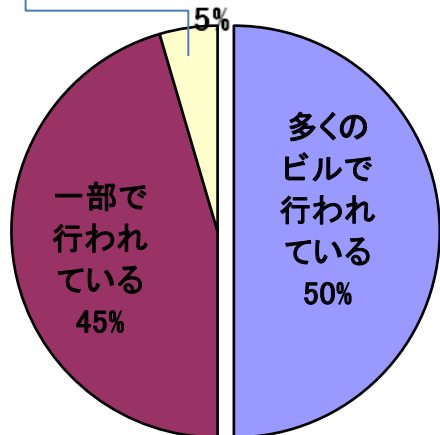
薬剤散布の事前通知

都職員

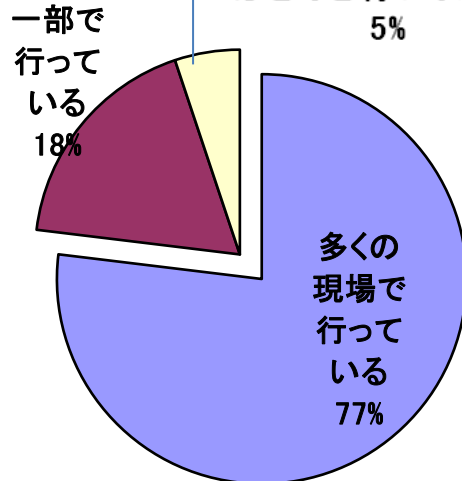
ビルメン

PCO

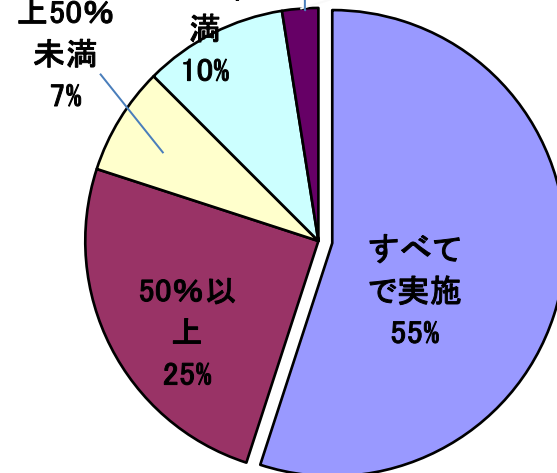
ほとんど行われていない



ほとんど行っていない

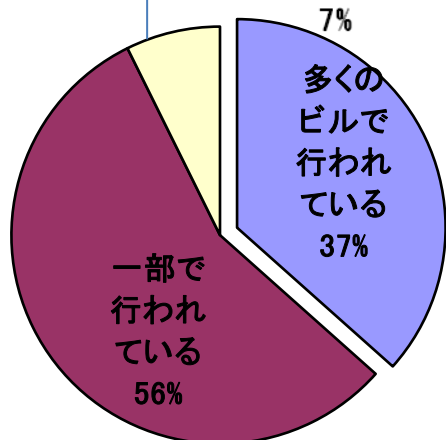


10%以上50%未満 7%
10%未満 10%
未実施 3%

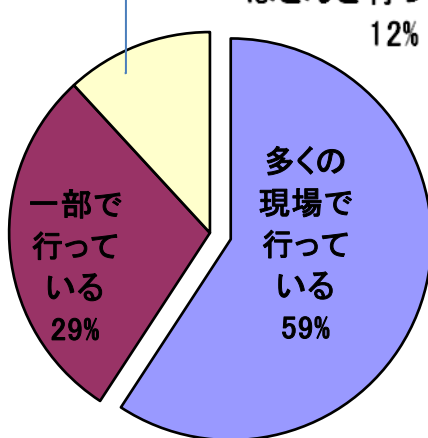


薬剤散布の掲示

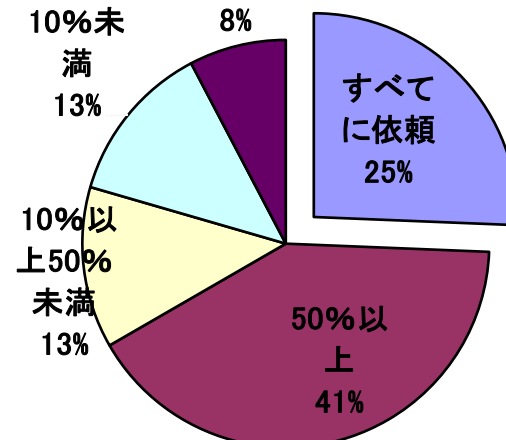
ほとんど行われていない



ほとんど行っていない



未実施 8%



問題点や意見

PCO

IPMを進める上での悩み(いくつでも)

順位	内容	%
1	契約価格に転嫁できない	45
2	元請先の理解が得られない	40
3	作業コストが上昇した	35
4	補修が多くなった	18
5	社員のレベルが追いつかない	15
6	責任が重くなった	10
7	コスト優先の風潮が根強い	3
7	意味を理解していない業者が多い 安売りをアイテムにしている	3
7	仕事量が何倍にも増えた	3

PCO

どのようにしたら費用をまかなえますか(いくつでも)

順位	内 容	%
1	作業効率を上げる	53
2	調査を実施した後の必要な措置を別途料金とする	53
3	技術レベルを上げる	48
4	テナントに負担を求める	28
5	値上げ交渉をする	23
6	作業場所を絞る	20
7	防除作業結果の保証を絞る	18
8	調査を簡便にする	15
9	契約をやめる。	3
9	付帯業務を増やす。	3
9	調査能力を上げる。	3
9	全体的な仕組みを再検討する。	3

ビルメン

IPMを進める上での悩みはありますか(いくつでも)

順位	内 容	%
1	契約価格に転嫁できない	58
2	作業コストが上昇した	25
3	ビルオーナーの理解が得られない	21
4	防除技術が追いつかない	9
5	責任が重くなった	8
6	補修が多くなった	6
7	分からない	4
7	現在IPMを実施していない	1
7	特にない	1

都職員

IPM普及に障害があるとすれば何ですか

順位	内容	%
1	維持管理権原者の知識と理解がない	41
2	元請先の知識と理解がない	34
3	利用者や居住者の協力や理解が少ない	25
4	PCOの技術が低い	9
5	分からない	6
6	IPMは施設によって方法は異なる。 どの方法で駆除を実施すればIPMにのっとっているの かわかりづらい。	1
6	契約の問題	1
6	薬剤製造会社等の経済的問題。	1
6	薬剤を撒くと安心する利用者が少ない。	1
6	予算＝薬剤という認識が強く、環境整備の認識がうすい	1

まとめ

- IPMの認知度は十分ではないが、適切な考えと理解されている。
- 事前調査、効果判定は大分定着しつつある。
- 目標水準はまだ浸透していない。
- PCO業務は薬剤偏重からIPMへ大きく脱皮、薬剤費は減少し、薬剤以外の方法が増加、現場も改善されている。
- PCOの調査、報告書作成など負担が増えている。
- 経費増を契約価格に転嫁しにくい。
- 発生源対策や侵入防止対策の取り組みは見られるが、十分とはいえない。
- 薬剤散布の通知、掲示は徹底されていない。
- ビルオーナー、ビル管理者、テナントの理解が得られにくく、PCOへの評価も低い。

協会と行政が協力して、ビルオーナー、ビル管理者、テナントへの啓発活動が望まれる。